

平成 23 年度公民館運営審議会（第 3 回）

とき 平成 23 年 11 月 15 日(火)午後 2 時

ところ 貝塚市立中央公民館 講座室 3

出席委員 浮穴委員長 沼野副委員長 竹内委員 南委員 武本委員 南村委員 米田委員
馬場委員 中村委員 松下委員 大西委員 井上委員

欠席委員 明石委員

出席職員 西野中央公民館長 大脇浜手地区公民館長 北野山手地区公民館長
稲田中央公民館長補佐

(1) 全国公民館研究集会の報告について (10/20~10/21 佐賀市 米田委員)

米田委員：長年公民館を利用させてもらいながら還元という事ができていなかったの、この機会に勉強させてもらおうと思って参加しました。会場はコスモス大ホールより少し大きいぐらいで 1,800 人の参加がありましたが、大阪府からの参加者が私ひとりで驚きました。

1 日目、緊急フォーラムでの岩手県宮古市中央公民館からの発表は、新聞やテレビの報道などで知っていたことでも生の声で聞かされた内容は衝撃的なことでした。震災時、震災後に公民館に求められるものについて机上の論議では尽くせないものを示されたと思います。

2 日目の分科会は「公民館の運営と住民参画」に参加し、京都府綾部市の綾部公民館からの発表に対し、指定管理者制度を導入してどうであったかを質問しました。6 年目を迎えた今でも完全なものであるとはまだいえない、との返答でした。(指定管理者は綾部地区自治会連合会長)

(2) 近畿公民館大会について (11/10~11/11 姫路市 沼野副委員長 竹内委員 大西委員 西野館長、北野館長)

沼野副委員長：岸和田市の送迎バスに乗せていただきました。交流を兼ねて乗ってくださいと西野館長からは言われましたが、司会役がいないので自己紹介もなく残念でした。第 1 分科会「家庭教育と公民館」に参加しましたが、事例発表の内容もとりとめがなく、司会者が広いホールの中、いきなり順番にあてていたり助言者が最後のほうの決められた時間枠の中でしか助言しなかったり、運営のまずさが目に付きました。

竹内委員：第 6 分科会「公民館の管理運営」～地域に根ざした公民館運営～に参加しました。内容は別紙のとおり相生市公民館の事業内容の説明でしたが、社会教育行政にまだ経験の浅い方からの発表でした。指定管理者制度についても話題にはなりましたが、関心は高くても討議になりえなかったのが残念に思いました。

大西委員：第 3 分科会「人権教育と公民館」に参加しました。由良町公民館の「お話の会」「手話の会」の活動内容でした。なぜ、それらを公民館で？と思いますが、貝塚市では障害福祉課

や図書館の管轄で行われている事が、由良町ではそれらの担当課では行われていないから、とのことでした。指定管理者によって運営されているので、即断即決ができるとのこと。テーマについては活発な意見がでにくかったのですが、人権全般の話に移り、「障がい」の「がい」はひらがなで書くのが正しいのか漢字で書くのが正しいのかという話で俄然盛り上がり、和歌山県庁担当者からの話もありました。公民館に即した話にならなかったのが残念です。

北野館長：第5分科会の司会を担当しました。96名の参加。先ほど沼野副委員長が進行面の事を言われていましたが、綿密にうちあわせをした事なのでそのとおりに行われたという面があります。近くの大阪音楽大学との学社連携のとりくみとして「東豊台コンサート」を行った豊中市の公民館の事例発表で、具体的成果としての発表もありましたが、やや長いと感じました。

西野館長：第5分科会の運営を担当しました。事例発表をするはずだった地区から直前になって「事例をだせない」という連絡がはいり、急遽豊能地区にお願いしたという経緯があります。コンサートに向けて参加者が一体となった優れた取組みの発表でしたが、「現代課題と公民館」というテーマにどれくらい迫ることができたのかは疑問が残ります。東日本大震災をふまえた関連の討議がなかったので、発言できない立場にも拘わらず問題提起をしましたが、時勢に応じた求められるものに答えることができたのか、反省が残ります。

浮穴委員長：障がい者は「害」のある人ではないので、私自身も「がい」をひらがなで書いていますが、「障がい」の「障」の字も「さしさわり」という意味の「さわる」と読むので、全部ひらがなで書く場合もあるとききました。言葉だけいじることは意味のあることでしょうか。言葉の問題で解決することでしょうか。

井上委員：前大阪府知事の決定により、大阪府の公文書はひらがなの「がい」で統一されています。障碍（「がい」が、いしへんの漢字）という字もあります。しかし、私の属する「大阪府視覚障害者協会」はひらがな表記にされていないし、今後するつもりもありません。言葉だけかえたところで差別がなくならないからです。「盲」の訓読みである「めくら」も使われなくなりましたが、それで視覚障害者に対する差別がなくなったかといえば、そんな事はありません。

(3) 三館の公民館まつりを終えて

中央三年前の第53回のまつりまで、公民館が誕生した5月にずっと行われてきましたが、野外のにぎわい（公民館活動をしていない団体の模擬店も多い。）が中心になり、公民館活動の発表の場になっていないという意見が出されました。討議の結果、54回からすべてをコスモシアターの中で夏期に行い今回その形で3回目を終えました。57回の開催時期については、これまでの話し合いが公民館とクラブ協議会中心に行われてきたので、公民館で活動するすべての団体に話し合うため、まつり検討委員会をたちあげました。中央は浜手や山手のような単独館ではなく複合施設なので、コスモシアターを13ヶ月前から予約する必要があります。この検討委員会でじっくり討議するために、24年度中のホールの予約は行いませんでした。そのかわりとしての、クラブ協議会だけのまつりなどは計画されています。

（西野館長）

浜手 昨年大規模な省エネ改修工事を行い、その1年後のメンテナンスの関係でまつりが例年より1週早くなり、山手と同日開催となりました。双方に参加されている利用者や講師の方は大変なこともあったと思いますが、皆さんの工夫や努力で、大きな混乱を避けることができました。また、天候面で前日の準備に苦慮しましたが、当日は予定通り進行し、2,000人の参加がありました。浜手地区公民館は二色浜パークタウンの街びらきとともに開館し、まつりも地域ぐるみのまつりとしての色合いは三館の中で一番濃いのですが、運営は利用者連絡会を中心にまわっています。運営のありかたについて考える時期にきていると思います。(大脇館長)

山手 個人的には館長として初めてのまつりで、いろいろ不安なことはありましたが、実行委員会の方たちのご尽力で、無事に成功裡に終了することができました。(北野館長)

米田委員(中央クラブ協議会代表)：昨年度の役員で、今年度のまつりをもう1年夏に行おうという決定をしました。その後東日本大震災がおこり、復興支援バザーをまつりに組込んだことなどで結束し、屋内で夏に行くことの肯定的意見も生まれました。しかしこれらの決定や意見集約はクラブ協議会が中心になってきました。大きな団体としてリードしていく必要はあるものの、公民館で活動するすべての団体といっしょに決めていかなければならない。その反省のもとに検討委員会でじっくり決めることになったのです。

中村委員(浜手利用者連絡会代表) 利用者連絡会以外の11団体には個別に事前会議への出席をよびかけても、当日のみの参加に終わるところが多いという結果になりました。良く解釈すれば任せてもらっている事になりますが、それをプラス面としてとらえるのではなく、やはり企画段階からいっしょにやっていくべきではないかというのが次年度への課題だと思っています。

馬場委員(山手活動協議会代表)：当日の天候を心配した他は、みなさんのお陰で万事うまくいったと思います。アンケートをみても、悪い事としてはスピーカーの不具合ぐらいでした。

大西委員：浜手のまつりの11団体の1つである障がい者施設に属しています。当日は施設利用者を含めてがんばったけれど、事前会議まではいけず申し訳ないことでした。団体の数が多いと、特に中央公民館では苦慮されていると思います。浜手山手をつなぐシャトルバスの利用状況はどうでしたか？

西野館長：全体で30人でした。それぞれ移動された方もおられ混乱はありませんでした。

沼野副委員長：24年度は、公民館につどう人達が公民館まつりとして結集せず、それぞれで協議会まつり等を行うというのは残念なことに思えます。

井上委員：浜手と山手の双方のまつりに参加しました。主催者側のご苦労はあったと思いますが、外から見ている事だけで言わせてもらえば、10月16日はスポーツや健康のまつりと重なり日程設定に難があったと思います。浜手はこじんまりとまとまっていたと思いますが、山手には問題を感じました。ホールの進行役の人の盛り上げようというサービス精神は結構ですが、度を越えたものがあったと思います。観客も私語が多いなどマナーが悪く、町会の演芸会では

ないのだから楽しければ良いというものではないという事をわかってもらいたいと思います。教育機関としての啓発的な事業展開をすべき公民館のまつりとして、ふさわしいものになるように願います。もうひとつ思ったのは、昔から山手地区に住んでいる人達と、東山に新しく住むようになった人達とをうまく融合させなければいけないということです。

中村委員：司会の人についていきすぎはあったかもしれませんが、良い面もあったと思うので、これだけで全体の印象が形作られるとしたら、残念なことです。観客のマナーの事など気をつけなければいけない事はあると思います。

北野館長：ひとそれぞれ受けとめ方に違いがあり、誰にとっても完璧というわけにはいきませんが、最大限それに近づけたいと思っています。

南委員：私も二中フェスタで司会をしたことはありますが、淡々としすぎてもいけないし、くだけすぎてもいけないし、司会に重い比重が置かれているようで、難しい事だと思います。

4) これからの公民館を考える

浮穴委員長：ここでは防災と関連して公民館にできることについて考えたいと思います。ここ(中央公民館のあるコスモシアター)は避難所になっていないのですか？

西野館長：はい、なっていません。近くに市役所や福祉センターがあるからでしょうね。

井上委員：小中学校はなっていますね。高校は近くに中学校がある場合はなっていないようです。

竹内委員：実際は、避難所として指定されていないところにも大勢避難されてきますよ。

西野館長：先日の近畿公民館大会でも2日目の全体会では「災害と社会教育～公民館にできること～」というのが大きなテーマとして、基調講演やパネルディスカッションが行われましたが、分科会では従来と変ることのない内容に終わってしまいました。

竹内委員：以前に「震災と公民館」として西宮市の状況をここで話しましたが、災害時に公民館に何ができるかといえば、職員は避難所業務に忙殺されて何もできないのです。公民館の震災以前の活動、地域づくりにどう取り組んできたかが、災害時に問われてきます。

大脇館長：11月6日に地元の二色の浜パークタウンで街ぐるみの防災訓練が行われたとき、浜手地区公民館も利用者連絡会とともに参加しました。避難所として指定され備蓄の食糧等はありませんでしたが、訓練をしたことはなく、実際何をどのようにすればよいのかわからなかったため、館に避難してもらい擬似家族を設定しての安否確認などを行い、かなりイメージをつかむことができました。もう一つとして、防災講座のとりくみ『減災のために今できること』も以前から継続しています。大学教授など専門家の方に話していただくとともに、防災委員会をつくっている町会のとりのくみや、消防署の人をはじめ、地域からも実際東北に行った人の体験談の紹介なども行い、地域から防災のとりのくみを発信していけるようにと思っています。

南村委員：パークタウンは街開きから23年。高齢化がすすむ街となっています。私の勤務する商工会議所はパークタウンから橋を越えてさらに海よりにあり、橋がくずれたら完全に孤島になってしまいます。訓練のときには五中の体育館に850人避難したそうですが、パークタウンの全人口6,000人に比べると14%ほどです。それでも足の踏み場もなかったでしょう。実

際公民館でできることとして炊き出しなどは想定できますが、災害が起きたときに何ができるかではなく、常に防災意識をもって日頃から行動してもらうよう、啓発することが大切であると思います。

竹内委員：職員は避難所に固定されて動きがとれず、来ている人だけを相手にしています。地域でどうであるかの安否確認も利用者団体を通じて後から知らされることになります。少し経った頃、会議や活動などの場所を貸してほしいという申し入れがあり、その時は「こんな時に」と腹立ちを感じましたが、普段の活動をなるべく早く再開する事は心の元気につながる大切な事であると後に思いました。

西野館長：津田小学校での出前講座のときに、地域の町会や福祉委員会から手厚い協力が得られ、地域のつながりの大切さをひしひしと感じました。一方で回覧板が途中で紛失してしまうような自治会もあります。個々の自治会の問題で終わらせるのではなく、地域コミュニティ作りの役割を公民館として担っていく役割があります。

井上委員：現在、ハンディキャップのある人達を災害時に誘導するための組織づくりに関わっていますが、6,100名への案内を送ると、内容以前に「なぜ私の住所を知りえたのか」という苦情がきます。個人情報保護との関連で難しい面がありますが、この組織作りはすすめていかなければなりません。また、私の住んでいる所は西小学校が避難場所になっていますが、見出川を越えるとすぐ泉佐野市で、西小学校にいくより余程近いのです。こういう点は行政どうしの連携で柔軟に対応できないものかと思います。

沼野副委員長：公民館が、支援する側にとってもその活動拠点になってほしいと思います。結婚して貝塚にきて最初は地域で生きにくく、公民館活動を経て地域デビューができた私にとっては、地域でのつながりをつくっておくことの重要性をひしひし感じます。それは公民館のつながりから生まれました。だから近畿公民館大会の状況や公民館まつりに向けての状況をきくにつけ、危機感を感じます。

米田委員：顔を知っているだけのつながりでもよいので、声かけをしていくことが大切ですね。

浮穴委員長：貝塚は（富田林も）、豊中や吹田のように小学校ごとに公民分館があるわけではないので、学校とのつきあいを密にしておくことが重要ですね。学校の放送機能も使えるのではないですか。

井上委員：市の防災放送は普段は天候の注意報などを流し、町会の放送機能は普段はお葬式のお知らせなどを流していますが、緊急時には活用できると思います。

松下委員：学校からはメール配信をして災害情報を知らせるという事もしています。

浮穴委員長：一番大切なことは日常からのつながりですね。